

## 群馬県嬭恋村 万座温泉ホテル



### 1. 火災の特色

この火災は死者11人を出した蔵王観光ホテル火災の翌日に発生した火災であり、相次ぐホテル火災に市民や防災関係者に衝撃を与えた火災である。当ホテルは、一部、屋内消火栓等の消防用設備等の未設置部分があり、消防機関による違反処理がおこなわれている最中であった。また防火管理者の選任もなされておらず、まさに防火意識の欠如したホテルでの火災といえる。

当ホテルは表示公表制度の対象であるが、適マークは交付されていなかった。

### 2. 出火日時

(1) 出火日時

昭和58年2月22日（火） 0時50分ごろ

(2) 覚知日時（覚知方法）

昭和58年2月22日（火） 1時08分（119番通報）

(3) 鎮火日時

昭和58年2月22日（火） 5時50分

### 3. 火元の概要

(1) 所在地

群馬県吾妻郡嬭恋村大字千俣2401

(2) 火元建物等の名称

万座温泉ホテル(株)日進館

(3) 火元建物の構造、形態等

① 建築年月日

A館 昭和56年

B館 昭和43年

C館 } 明治年間に建立  
日進館 }

② 増改築の状況

昭和4年、11年、14年、18年、31年、46年に増築

③ 建物用途

ホテル(5)項イ

④ 構造

A館 鉄筋コンクリート4階建

B館 木造モルタル2階

C館 木造3階建 渡り廊下により相互に接続

日進館 木造2階建

⑤ 面積（建築面積、延べ面積）

延べ面積

A館 5,520㎡

B館 1,480㎡

C館 3,314㎡

日進館2,914㎡

⑥ 収容人数、入居者、世帯数等

ア 収容人員 400名

イ 出火時在館者 454名

⑦ 従業員数

70名

⑧ 建物階層別用途

B館（火元建物）

B館

階	階数	用途
2	669.9㎡	客室
1	810.1㎡	客室、食堂、広間等

⑨ その他 適マーク交付対象物ではあったが、屋内消火栓設備等の設備の未設置の理由により交付されておらず、是正指導中であった。

(4) 消防用設備等の設置状況

① 消火設備

消火器（全館）、屋内消火栓設備（A館のみ）

② 警報設備

自動火災報知設備（A館、B館1部）、漏電火災警報器（使用不能）、放送設備（A館のみ）

③ 避難設備

誘導灯（全館）

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者

未選任

② 消防計画

未届出

③ 避難訓練

昭和57年12月22日に行われたのみで、それ以外は実施されていない。

#### 4. 気象状況

(1) 天候

雪

(2) 風位、風速

風速：6 m/s（最大瞬間風速20m/s）

(3) 気温、湿度（相対、実効）

気温：-20℃ 相対湿度：37%

(4) その他

積雪 2 m

#### 5. 出火原因

(1) 発火源

不明

B館5号棟1階のトイレ屋根付近からの発煙が最初に発見されていることから、漏電の可能性が強いが、断定していない。

(2) 経過

不明

(3) 着火物

不明

## 6. 損害状況

### (1) 人的被害状況

- ① 死者なし
- ② 負傷者 3名（客1名：男20才、従業員2名：男34才、男32才）

### (2) 物的損害状況

- ① 火元建物
  - ア 棟数 1棟（B館のうち5号館、7号館）
  - イ 焼損程度 全焼
  - ウ 焼損面積 887㎡
  - エ 損害額 9,390.8千円
- ② 類焼建物
  - A館一部焼焦

## 7. 火災の経過（火災の様態）

### (1) 出火場所等の状況

B館1階洗面所トイレ屋根裏付近（推定）

### (2) 出火に至るまでの経過

不明

### (3) 火災発見の経緯

B館の自動火災報知設備は、焼損部分を含んだ一部分に設置されていたが、作動しなかった。火災発見は出火点付近を通った宿泊者により行われた。

### (4) 消防機関への通報状況

従業員がフロントから119番へ通報した。

### (5) 初期消火の状況

初期消火は、A館の従業員3名が消火器5本を使用した。さらに、火が渡り廊下を伝わり、A館に延焼し始めたため、A館の屋内消火栓設備を使用し、延焼防止を行ったが効果がなかった。

### (6) 避難の状況

2m以上の積雪のため、旧館の非常口6ヶ所はどれも開かなかった。そのため、客の多くは手や足で部屋や廊下の窓ガラスを割り、外へ飛び降りた。

### (7) 自衛消防隊の活動状況等

避難誘導に非常放送設備は使用されていない。出火したB館5号棟では、従業員による誘導に加え、宿泊客による誘導が行われた。また、類焼したB館7号館でも同様な誘導が行われた。A館は、非常放送設備による避難誘導がされた。

## 8. 消防機関の活動状況

### (1) 出動隊等

#### ① 出動車両

消防署	ポンプ車	2台
	可搬動力ポンプ車	2台
	救助工作車	1台
	救急車	2台
	指令車	2台
消防団	ポンプ車	8台
	指令車	1台
	計	18台

#### ② 出動人員

消防署	23名
消防団	150名
計	173名

### (2) 消防機関の消火・救助活動の状況

#### ① 消火活動

各消防隊は、付近の河川及び建物内貯水槽に水利部署し延焼防止にあたった。

なお、消防団の中には浴槽より取水したが、湯量が無くなり、その後ポンプが凍結していた隊も数隊あった。

#### ② 救助活動

先着隊が到着した時、B館7号棟及び5号棟は炎上中であった。2名の避難未確認との情報を得空気呼吸器を着装して検索を行った。その後2名はすでに避難していたことが確認された。

## 9. 問題点・教訓

- (1) 温泉の湯気・湿気等で、消防用設備等が一部腐食していたが、維持管理が適切になされていない。
- (2) 積雪のため非常口が、開放できなかった状態になっていた。
- (3) 当ホテルは旧館部分の屋内消火栓設備等の未設置と、防火管理者の未選任等を、消防機関から警告がされていたにもかかわらず改善されていなかった。

図-1：配置図

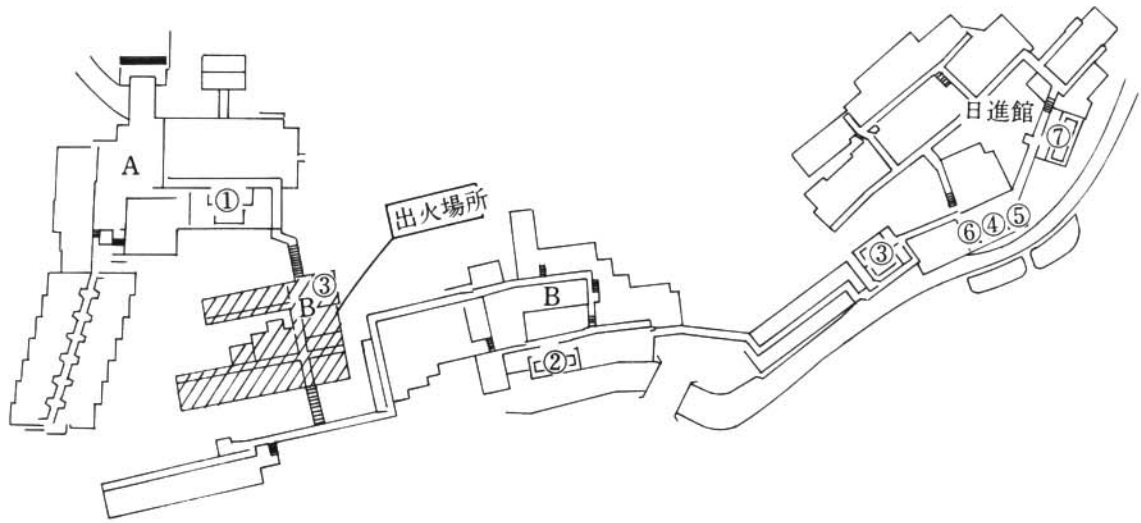
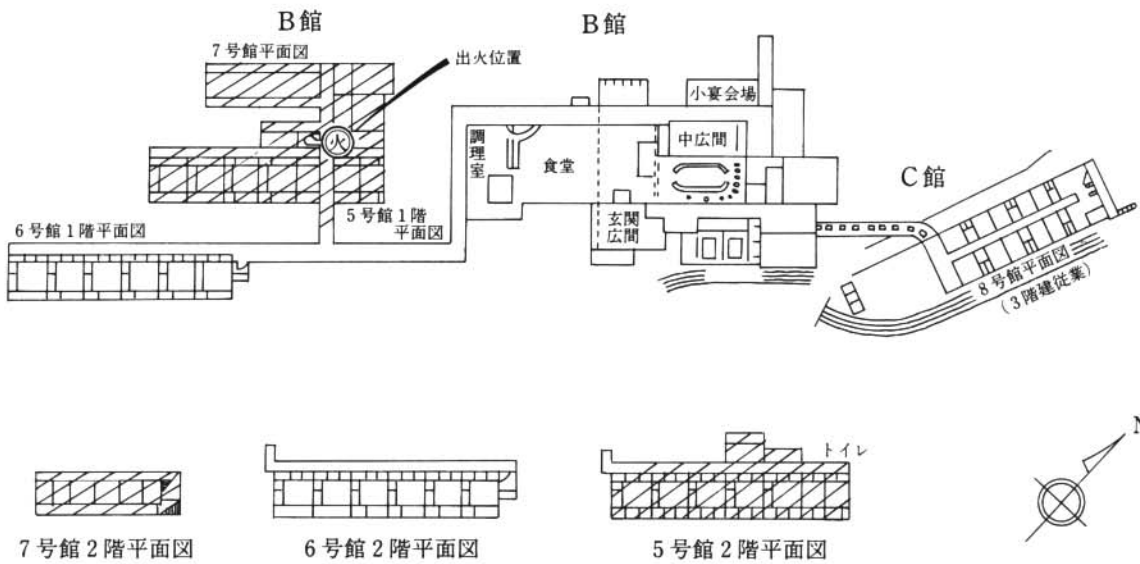


図-2：平面図（出火階・被害階・1階・その他）



2階の平面図